

# イオン北海道が 5 年連続 首位へ

上位 50 社の売上高合計は前年度比 3.7%増  
寡占化が続く

## 2024 年度 北海道スーパーストア売上高動向調査



本件照会先

柳澤康行(調査担当)  
帝国データバンク  
札幌支店情報部  
011-272-3933(直通)  
問い合わせ先: info.sapporo@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/01/14

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。  
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## SUMMARY

円安や原材料価格高騰の影響などから食料品を中心とする値上げが相次ぐ流通小売業界。顧客獲得競争は激しさを増している。スーパーストア業界に目を転じると「イトーヨーカドー」「西友」が相次いで道内から撤退を表明。こうしたなか、イオン北海道が 2024 年 10 月 1 日付で西友の道内 9 店舗を承継したほか、同 11 月 23 日にはOICグループ(神奈川県川崎市)がイトーヨーカドーから承継した道内 1 号店となる食品スーパー「ロピア屯田店」(札幌市北区)がオープンするなど業界再編の動きが活発化している。

※帝国データバンク札幌支店は、企業概要ファイル「COSMOS2」(登録社数 150 万社)を対象に、2024 年度(2024 年 4 月期～2025 年 3 月期)に決算を迎えた道内企業(約 7 万社)から、スーパーストア運営業者を抽出、売上高(不動産賃貸収入等を含む)動向を調査した。なお、売上高は推定値を含む。

### ～調査対象～

1. 原則として生鮮 3 品を扱い、セルフサービス方式を採用する法人
2. 北海道内に本社を置きスーパーストアを展開する法人
3. 北海道内に本社を置き店舗展開する生活協同組合(大学生協を除く)
4. 売上高は不動産賃貸収入等を含み、店舗数は上記の対象店舗とする

## 売上高ランキング～第1位はイオン北海道、第2位はコープさっぽろ

ランキング第1位は売上高 3774 億 8100 万円(前年度比 6.0%増)を計上した**イオン北海道(株)**で、5年連続で首位となった。第2位は売上高 3253 億 5000 万円(同 2.5%増)で**(生協)コープさっぽろ**。第3位はアークスグループの中核、**(株)ラルズ**で売上高 1549 億 5700 万円(同 4.5%増)。**(株)ホクレン商事**は売上高 558 億 8000 万円(同 0.7%減)で第4位となった。第5位の**(株)ダイイチ**は売上高 523 億 9300 万円(同 7.8%増)を計上した。上位10社のランキング順位については前年度と変わりなかった。

### 2024年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

(単位:百万円)

順位	前年 順位	法人名	所在地	店舗名	店舗数 (決算時)	決算期 (月)	2023年度 売上高	2024年度 売上高	伸び率 (%)
1	1	イオン北海道(株)	札幌市	イオンほか	183	2	356,008	377,481	6.0
2	2	(生協)コープさっぽろ	札幌市	コープさっぽろ	108	3	317,495	325,350	2.5
3	3	(株)ラルズ	札幌市	スーパーアークスほか	74	2	148,282	154,957	4.5
4	4	(株)ホクレン商事	札幌市	ホクレンショップ ほか	52	3	56,287	55,880	▲ 0.7
5	5	(株)ダイイチ	帯広市	ダイイチ	24	9	48,596	52,393	7.8
6	6	(株)道北アークス	旭川市	スーパーチェーンふじ ほか	43	2	44,453	44,722	0.6
7	7	(株)福原	帯広市	フクハラ ほか	41	2	43,277	43,694	1.0
8	8	(株)東光ストア	札幌市	東光ストア ほか	26	2	40,540	41,240	1.7
9	9	北雄ラッキー(株)	札幌市	ラッキーほか	33	2	38,170	37,157	▲ 2.7
10	10	(株)道南ラルズ	北斗市	ラルズマート ほか	18	2	28,544	30,268	6.0
11	11	JR北海道フレッシュキヨスク(株)	札幌市	ジェイ・アール生鮮市場	9	3	23,895	25,109	5.1
12	12	(株)道東アークス	北見市	ラルズマート ほか	14	2	20,273	20,844	2.8
13	13	(株)豊月	苫小牧市	フードD	11	1	13,859	14,270	3.0
14	16	(株)ダイゼン	鷹栖町	DZマート	30	9	8,718	10,717	22.9
15	14	(株)津司	札幌市	卸売スーパー	7	4	9,600	9,300	▲ 3.1
16	15	(有)魚長	函館市	生鮮夢市場 ほか	16	2	8,971	8,822	▲ 1.7
17	17	(株)モリワキ	札幌市	北海市場	5	12	5,740	6,040	5.2
18	18	(株)東武	中標津町	東武サウスヒルズ ほか	2	1	5,130	5,200	1.4
19	19	(株)ハビオ	音更町	ハビオ	1	3	4,119	4,206	2.1
20	20	(株)一ウ商事	札幌市	マンボウ西野店	1	2	3,800	3,850	1.3

- ※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継  
 ※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継  
 また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継  
 ※3 (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更  
 ※4 (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併  
 ※5 イオン北海道(株)は2020年3月1日付でマックスバリュ北海道(株)を吸収合併  
 ※6 JR北海道フレッシュキヨスク(株)は2021年10月1日付で(株)北海道ジェイ・アール・フレッシュネス・リテールを吸収合併  
 ※7 イオン北海道(株)は2024年10月1日付で(株)西友より北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

## 大手3強の売上高～イオン北海道が3774億8100万円と5年連続でトップに

大手3強の売上高を見ると、イオン北海道(株)が前年度比6.0%増の3774億8100万円を計上して、5年連続でトップとなった。アークスグループ(道内本社6社)は店舗数216、売上高合計は同3.2%増の3357億2500万円で第2位となった。

第3位は(生協)コープさっぽろ及び業務提携先の(有)魚長(函館市)、(株)中央スーパー(留萌市)のグループ。2019年9月に(生協)コープさっぽろと(株)中央スーパーは業務提携契約書を締結し、同グループの店舗数は127、2024年度における売上高合計は同2.3%増の3353億3300万円となった。

### 2024年度(2024年4月期～2025年3月期)大手3強の売上高

#### ●イオングループ売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2023年度	2024年度	伸び率 (%)
イオン北海道(株)	183	356,008	377,481	6.0
合 計	183	356,008	377,481	6.0

■イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

■マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの食品スーパー7店舗を承継。

また同年10月より(株)いちまるのスーパーストア14店舗を承継

■2020年3月1日付でイオン北海道(株)はマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

■2024年10月1日付で(株)西友より北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

#### ●アークスグループ売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2023年度	2024年度	伸び率 (%)
(株)ラルズ	74	148,282	154,957	4.5
(株)東光ストア	26	40,540	41,240	1.7
(株)道北アークス	43	44,453	44,722	0.6
(株)福原	41	43,277	43,694	1.0
(株)道南ラルズ	18	28,544	30,268	6.0
(株)道東アークス※1	14	20,273	20,844	2.8
合 計	216	325,369	335,725	3.2

※1: (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更

#### ●(生協)コープさっぽろ及び業務提携先売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2023年度	2024年度	伸び率 (%)
(生協)コープさっぽろ	108	317,495	325,350	2.5
(有)魚長	16	8,971	8,822	▲ 1.7
(株)中央スーパー※1	3	1,299	1,161	▲ 10.6
合 計	127	327,765	335,333	2.3

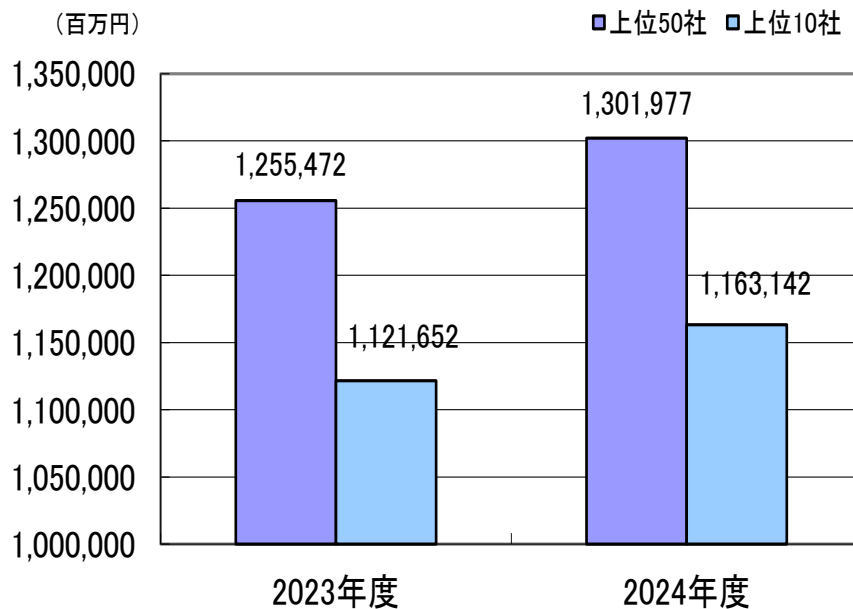
※1: (株)中央スーパーは2019年9月に(生協)コープさっぽろと業務提携契約書を締結

## 上位 50 社売上高合計 1 兆 3019 億 7700 万円で前年度比 3.7%増

売上高上位 50 社の売上高合計は、1 兆 3019 億 7700 万円となり、前年度(1 兆 2554 億 7200 万円)から 3.7%増で推移した。上位 10 社の売上高合計は、50 社合計の 89.3%を占める 1 兆 1631 億 4200 万円で、前年度(1 兆 1216 億 5200 万円)から 3.7%増で推移。

上位 50 社に占める上位 10 社の売上高合計の構成比は前期(89.3%)と変わらず寡占化が続いている。売上高が前年度比増収(横ばい含む)の企業は上位 50 社中 36 社、減収企業は 14 社となり、増収企業の数が増えた。

売上高合計



# 売上高上位 10 社の動向

売上高上位 10 社の顔ぶれをみると、2022 年度から 2024 年度まで 3 年連続で順位に変動がなかった。なかでも上位 4 社については 5 年連続で順位に変動はみられなかった。

## スーパーストア売上高ランキング推移(2015 年度～2024 年度)

スーパーストア売上高ランキング推移(2015年度～2024年度)

順位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)
2	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ	(生協) コープさっぽろ
3	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ
4	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事
5	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ
6	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)道北アークス	(株)ダイイチ	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス
7	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)福原	(株)道北アークス	(株)福原	(株)福原	(株)福原
8	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	(株)福原	(株)ダイイチ	(株)福原	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア
9	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)
10	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)道南ラルズ	(株)道南ラルズ	(株)道南ラルズ	(株)道南ラルズ	(株)道南ラルズ

[注1] イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継  
[注2] マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継。  
また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継  
[注3] (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併  
[注4] イオン北海道(株)は2020年3月1日付でマックスバリュ北海道(株)を吸収合併  
[注5] イオン北海道(株)は2024年10月1日付で(株)西友より北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

イオン北海道(株)は、「独自商品の強化」に向けた取り組みを行うなか、商品開発において「蜂屋監修鍋スープ 旭川醤油味」が発売当初から鍋スープカテゴリで売上上位となったほか、トップバリュのベストプライスが販売好調で推移した。期中の2024年10月には道内の西友9店舗の承継を行い、同年12月中に再オープンさせたことも売り上げに寄与した。売上高は前年度比6.0%増の3774億8100万円を計上した。

(生協)コープさっぽろは、主力の店舗部門は、前期にオープンした「新さっぽろ店」の売り上げが期初より加わり、「きたひろしま店」や「藤野店」、「パセオすみよし店」も通期稼働となった。既存店舗では3店舗の大規模改修、15店舗で大惣菜化プロジェクトを実施、同時に冷凍食品売り場の拡大したことなどで前期比増収となった。宅配部門も「トドック」の契約者数は純増傾向を維持し、冷凍食品の品揃えを強化させたほか、購入単価の上昇もあって前期比増収を辿った。売上高は前年度比2.5%増の3253億5000万円を計上した。

(株)ラルズは、当社グループのプライベートブランドと位置付けるCGC商品の中でも特に価格訴求力の高い「定番品を低価格で提供する『ショッパーズプライス』」や「大容量品を低価格で提供する『断然お得』」を拡販。また「RARAプリカ・コンサドーレカード」入会キャンペーンなどのイベント実施により、新規会員を拡大したことで、特に食料品・酒類部門の売り上げが伸展した。売上高は前年度比4.5%増の1549億5700万円を計上した。

(株)ホクレン商事は、食品スーパー事業では、2024年11月に「ホクレンショップ FoodFarm ルシナ店」を開店したが、ブランド力も後押しして集客は向上。食材価格の高騰分を価格転嫁したほか、コメの買い控えの影響なども見られなかったが、前期に閉店した店舗分の売り上げ減少が響いたことで、売上高は前年度比0.7%減の558億8000万円を計上した。

(株)ダイイチは、既存の各店舗でセブンプレミアム商品などの品揃え強化や手作り総菜などを充実させたことで、集客は堅調に推移した。2024年に「COCONO SUSUKINO」内にオープンした「すすきの店」の集客も寄与して、売上高は前年度比7.8%増の523億9300万円を計上した。